



教育目標：すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる

めざす学校像：①生徒の人格が尊重される学校 ②豊かな人間関係とより良い校風を育む学校 ③生徒の未来を見据えた学力を育む学校

めざす生徒像：「自己表現できる生徒・互いに認め合える生徒・粘り強く取り組む生徒」（令和6年度改訂）

めざす教師像：①生徒の人格と多様性を尊重する教師 ②より良い集団をつくり個々を育てる教師 ③授業を通して生徒の未来を明るくする教師

項目			中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かな人間性の育成	1	豊かな心	・人権教育の充実 ・道徳教育の充実 ・特別活動の充実 ・生活指導の充実 をととして、自分の良さや可能性に気づき、互いを認め合う豊かな人間性を育成する。	全教育活動をととして、心を育てる教育を推進し、いじめ防止教育の充実に努め、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	①人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。 ②「いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止教育を徹底する。 ③行事等をととして、互いを認め合い、よりよい校風を育む。	3	<12月>集計	4	<12月>集計	教員評価が低い。お互いを理解していないためのトラブル等があることが課題である。	道徳や学級活動等を通して、思いやりや相互理解の大切さについて重点的に指導する。四響祭等で、互いを認め合う活動を意図的に取り入れる。
	2	生活		認め合う姿勢を醸成し、社会的資質や行動力の向上を図るとともに、困難をしなやかに乗り越え回復する力を育む。	①基本的生活習慣を確立する。（時間を意識した生活） ②挨拶の日常化を図る。（自然な挨拶） ③主体性をもって何事にもチャレンジさせる。（自主的な行動）	3	<12月>集計	4	<12月>集計	ノーチャイムの取組を行ったが、時間、挨拶等について十分に指導しきれなかった。	学級活動や学年行事等を通して、時間、挨拶等の大切さについて、重点的に指導する。生活指導部よりキャンペーン活動を企画していく。
確かな学力の定着	3	基礎	・基礎的・基本的な知識・技能の向上 ・思考力、判断力、表現力の向上 ・生徒の視点に立った授業改善をととして、豊かな未来を創造する確かな学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実践をととして、基礎的・基本的事項の習得を図る。	①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組む。 ②ICT機器の効果的な活用を推進する。 ③読書活動を充実させる。	3	<12月>集計	3	<12月>集計	学力はある程度付いているものの、習得感を感じられていないと思われる。	ICTの活用や個別指導等の方策を見直す。身に付いた実感をもたせる指導を工夫する。
	4	活用		個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をもとに、思考力、判断力、表現力の向上を図る。	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善に取り組む。 ②体験活動を取り入れた、探究的な学びによって自ら学ぶ力を育成する。 ③1人1台端末を活用し現代の諸問題を主体的に捉え解決しようとする意欲を育てる。	4	<12月>集計	3	<12月>集計	話し合いや協働的な活動によって、理解が深まっているという実感が得られていることが分かる。	思考力、判断力、表現力の向上につながるように、学習形態や指導方法を工夫していく。
たくましい心身の育成	5	支援	すべての子どもたちを大切にすることを推進する。	特別支援教育の視点に立った、一人ひとりに応じたきめ細かな対応を充実させる。	①特別支援教育の視点に立った、指導・支援を全教員で実践する。 ②サポート教室の整備や関係機関との連携をととして、必要な支援を行う。 ③不登校生徒や保護者に寄り添い、課題の解決に向けて取り組む。	3	<12月>集計	3	<12月>集計	支援的な指導について、もっとできる余地があると感じている教員が多くいると考えられる。	研修等を通して学び、生徒・保護者に寄り添った支援を更に充実させていく。
	6	体力・安全	健やかな身体力の育成と、体力向上に向けて取り組む。	健康で安全に生活する力を育成する。	①生徒が上達し、運動が好きになるような保健体育の授業改善を実践する。 ②校内での取組や家庭で取り組める運動の周知をととして、運動習慣を確立させる。 ③安全指導、避難訓練等をととして、主体的に自他の命を守れるようにする。	3	<12月>集計	3	<12月>集計	運動会の取組やバリケード設置訓練等を通して、体力向上や安全に関する指導を工夫して行えた。	体力調査の結果を分析し、保健体育の授業に生かしていく。地域の方と行う避難訓練を実施する。
学校・家庭・地域の連携	7	特色	特色ある教育活動を充実させる。	国分寺学の実施をととして、地域を考え、地域に貢献する生徒の育成を図る。	①9年間の学習活動の集大成として、3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習を実施する。 ②3年生の国分寺学×SDGsプロジェクト探究学習では、体験と地域への貢献を必ず取り入れる。	4	<12月>集計	3	<12月>集計	昨年度からの継続した取組により、国分寺学の認知が高まり、取組内容、目的も明確化している。	3年の発表会、SDGs講座を保護者や地域の方にも参加していただき、地域全体の学びの場としたい。
	8	連携	地域とともにある学校づくりを推進する。	コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域との連携・協働を進める。	①9年間を見通した系統的な小・中連携教育をととして、学力向上、生活指導の充実を図る。 ②国分寺型コミュニティ・スクールをととして、地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。	3	<12月>集計	3	<12月>集計	CS委員の紹介を生徒には行ったが、保護者会等での周知が足りなかった。	CSだよりを通して、活動を知ってもらうとともに、CS発案の取組を少しずつ取り入れていく。

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（ABCD4段階）を総合した評価です。AB合計の数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。